

18 心のよりどころだったSNS上の知人による誘い出し

ネットで出会った相談相手に会いに行き

そのまま連絡がつかなくなってしまった



※ DMは「ダイレクトメッセージ」。SNSの画面上ではなく、直接メッセージをやりとりすること。

辛いことがあってSNSにつぶやいていたUさん。気持ちが落ち着くメッセージをくれる人に出会い、DMでやりとりをするうちに、会いに行くことになりました。

出かけたきり家に帰ってこなくなり、警察に相談。誰にも言わずに会いに行ったことは、UさんのSNSの記録を確認して初めてわかったのです。

考えてみよう！

ネットだけの交流では、顔、姿、気持ち、メッセージ、どれも本物かどうかわかりません。それなのになぜ、ネットで知り合った人を信じたり頼りにしたりしてしまうのでしょうか？

A. 本当は誰に聞いてほしい？

- 気持ちを察してくれる友人
 - じっくり話を聞いてくれる家族
 - 何でも相談したいと思える先生
- がいてもネットで相談しますか。身近な誰かに寄りかかりたいと思う気持ちを見失わないで！

B. 知らない人のほうが便利？

自分を直接知っている人と、ネットだけでやり取りしている人。優しい言葉をかけられて嬉しいのはどっち？ ネットなら余計な詮索をされずに済み、都合がいいだけではありませんか？

C. どうしてもSNSを使うなら

本当に親身になってくれる人もいますが、上辺だけの人も山ほど。どうしてもSNSに頼りたいのなら、「深入りはしない」「DMを警戒し、個人的なやり取りはしない」を徹底しましょう。

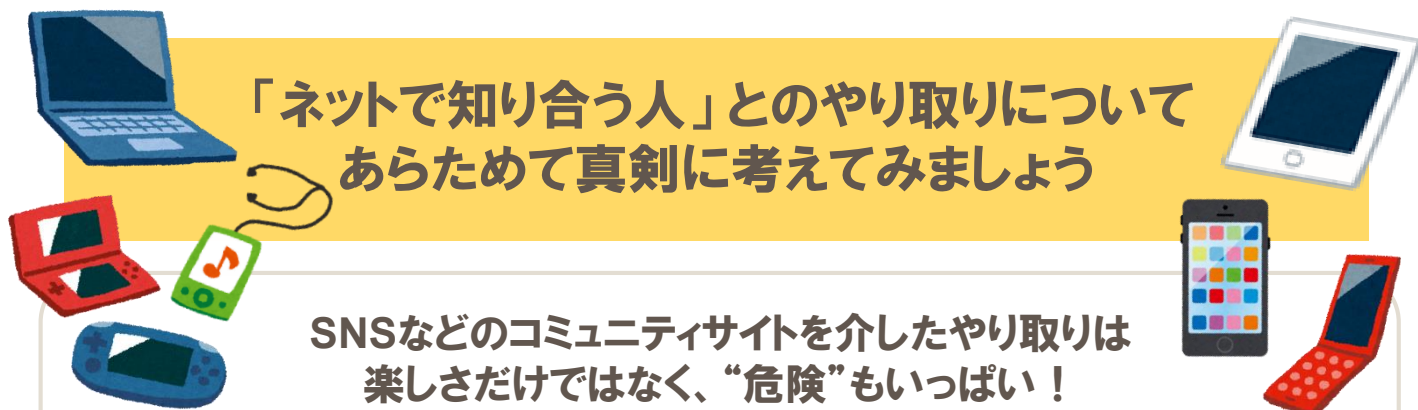
解説

成長過程で生じる不安定さとリスク志向が利用される危険

多くの子供がSNS利用を始めるのが、仲間との関係が大事で、かつ、悩みもモヤモヤすることも多い思春期の頃。感情の行き違いもしばしば起こり、リアルな生活で受けたダメージをネットにぶつけることで自分をコントロールしようとする子も少なくありません。でも、**そんな心理状態や判断力の甘さを知って、近づいてくる危険な大人**もいます。ネットの向こう側のいい人が悪い人かもしれないことを知りつつ、リスクよりもそのときの感情を優先させてしまう時期。ネットであ会った人に深入りしないよう「ここまで！」の限界を話し合い、意識して使うことの安全性を理解させましょう。

ワンポイントアドバイス

ネットの向こう側に救いを求めたがる時期。子供の言葉に耳を傾け、気持ちに寄り添い、相談できる関係を保つことが最善の予防策です。



「ネットで知り合う人」とのやり取りについて あらためて真剣に考えてみましょう

SNSなどのコミュニティサイトを介したやり取りは 楽しさだけではなく、“危険”もいっぱい！

『出会い系サイト』が法律で規制されて以来、特殊なサイトではなく、SNSなどごく普通のコミュニティサイトでのやり取りがきっかけで被害にあう子供が増え続けています。物心つく前から身近にデジタル機器があった高校生以下の子供たちにとって、SNSによるコミュニケーションは「会って話す」ことや「電話で話す」と同じ感覚ですが、大きな違いは**相手を目と耳で確かめることができないこと。趣味や話の合う人も、同世代の同性の仲良しも、優しく寄り添ってくれる年上の人も、画面から得られる文字情報・写真・動画が真実だとは限らない**のです。

「そんなことはわかってる！」と言いますが、「フォローしてくれたのにフォローを返さないのは悪い」とか「DMをもらって無視するのは気まずい」など、徐々に近づいてしまい、相手の思惑に引きずり込まれてしまうケースは少なくありません。

心や体に生涯消えることのない深い傷を負うばかりか、生命にかかわるような凄惨な事件も起きています。被害は、SNSの使い方も判断力も比較的高いはずの高校生が最も多いことから、「自分は気をつけているから大丈夫」ではないと考えることが重要です。取り返しのできないことになる前に、SNSの使い方をいま一度見直しましょう。

自分を守るためにできること ①

まずは普段使うSNSの設定を確認！

- ◆ アカウントの公開・非公開
 - ◆ 自分の投稿を読んでいい人の範囲設定
 - ◆ 自分がDMを受け取れる人の範囲設定
 - ◆ 自分の画像へのタグ付けに関する許可設定
- …ほか、プライバシーやセキュリティに関する設定を確認しましょう。アカウントが複数あるなら、それぞれの用途に合う設定を行い、使い分けを徹底すること。機種変更の際は必ず再確認を。



自分を守るためにできること ②

できるだけリアルな相談と発散を！

- ◆ イライラしたときは、スマホを置いて深呼吸
- ◆ グチは声に出して言う(人に話すのも有効)
- ◆ 気持ちを(スマホではなく)ノートにひたすら書く
- ◆ カラオケで発散(スマホのカラオケアプリもOK)
- ◆ ____時を回ったら、それ以上考えずにまず寝るなど、自分なりの“アナログな解消策”をいくつか考えておきましょう。そして、何かあったらネットに頼る前に、家族やリアルな友人に相談を。



自分を守るためにできること ③

どうしてもネットでのやり取りをしたいときのために「ここまで！」を決める

ネットに気持ちをぶつけても、現実に戻った途端にぶり返すこともしばし。それでもSNSに寄りかかりたいと思ったら、弱った心に付け込まれないよう、これ以上踏み込まない限界と対処法を決めておきましょう。

- ☑ 普段いつも発信しているアカウントには、**深刻なこと、プライバシーに関することは、書き込まない**
- ☑ SNSで話をした人から急にDMが届いたら「ありがとう、あとはSNSで！」と返すなど、**DMを断ち切る**
- ☑ 時間が経つほど断りづらい！イヤなこと、不安なことは「どうしよう…」と**悩まずに、すぐ&ハッキリ断る**
- ☑ しつこく誘われたり脅されたりしても、**決して応じず、独りで抱え込まず、身近な大人に相談する**
- ☑ 周囲に相談しづらいとき、相談できる人がいないときは、**警察や専門の窓口**に相談する**勇気を持つ**



- 『インターネットトラブル事例集(平成29年度版)』は、総務省ホームページで公開中。
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/jireishu.html
- いざというときの相談窓口については、各省ホームページのほか、内閣府ホームページ
http://www8.cao.go.jp/youth/kankyau/internet_use/soudan.html をご覧ください。